



ロボット作りに熱中、地域の小中学生に講習会を開く。携帯電話を使ったパーソナルモニタリングシステムを開発中、学会で発表。大学院入学を目指して猛勉強。

情報工学科4年生 横山佳奈さん



広島国際学院



フラワーフェスティバル（広島市）風船で動物を製作してPR。義援募金活動中。



「この大学に来て本当によかったと思う！」という中国からの留学生

情報工学科1年生 蒋光焜さん



現代社会学部に大学院博士課程を設置！

特集 地域に溶け込む 学生たちのボランティア活動	2・3
学科横断型教育プログラム 工学部	4
DPIに参加して 現代社会学部	5
夢をカタチに！準優勝と特別賞獲得 短期大学部	6
高校から発信 高等学校	7
若き日の想い出	8
学生時代の想い出と社会人になって思うこと	9
私の大学生活	9
「今の思い」中国からの女子留学生	10
校友会剣道部の活動	10
研究室紹介	11
現代社会学研究科 博士前・後期課程を設置	12
第35回高城祭	12



ボランティア団体のお祭り「べあそるべ2002」に参加、市民や子供とふれあい交流

広報
第52号
平成15年1月1日発行

地域に溶け込む

特

学生たちのボランティア活動

集

学生諸君と地域との関わりはどうなっているのでしょうか。地域もまた若い学生諸君が積極的に学舎から出て、若い力を地域で発揮してくれることを期待している。ボランティア活動からそれらの一端を紹介しよう。



● 思いっきり楽しんだ野外活動

学習支援



● 子供たちに「ものづくり」指導 共感！

（財）広島市ひと・まちネットワーク「感動塾・みちくさ」は、「みる・とる・つかう光の世界」をテーマにした小・中学生の自然観察と、ものづくりの課外体験学習である。夏休みに実施された3泊4日の理科・ものづくりの実体験キャンプでは、大学生ボランティアが企画・立案・指導を行い、小・中学生に自然と接する感動を与えた。大学生自身もまた社会教育を兼ねたボランティアの実体験である。



● 昆虫採集

国際交流



● 交流は元気の源

「留学生を支援する日本人学生の会」の研修会に本学の学生ボランティアが参加した。大勢の留学生や他大学のボランティアとふれあい情報交換した。



● 楽しく風船づくり

ボランティア活動団体のお祭り「ペあそるべ2002」にボランティア団体「AICAT」のメンバーとして参加。ものづくりで市民や子供とふれあい、交流した。



● 国際交流セミナー

地域防災活動へ



提供：朝日新聞社

震度6を想定した防災シミュレーション。広島市で活躍するボランティアに所属する3名の学生が、広島市災害ボランティア活動連絡協議会の主催する訓練に参加した。本人達はもとより、「学生ボランティア」の意味と今後の活動に大きな波及効果をもたらす体験であった。

写真 = 2002.3.24(日)朝日新聞掲載
右から2人目 = 岡田正和君



● 明るく募金活動！

広島市の祭り「フラワー・フェスティバル」にNPO法人「国際協力アカデミーひろしま」のメンバーとして参加した。風船で動物などを作り、活動のPRと障害者支援の募金に活躍した。



● 一人前の露店商？！

ひろがる活動の輪



地域の生活道路・通学路をきれいに！

短大では.....

毎年前期と後期（本年は7月5日・11月8日）に、学友会の呼びかけで通学路や周辺地域の清掃作業をしている。奉仕の気持ちや公衆道徳心は、押し付けられるよりは自発的な行動によって養われる。取り組みのきっかけとなるこのような機会は、活動を広げる源となろう。

● 高校のボランティア活動 ●

9月1日(日)に実施された「空き缶等散乱ごみ追放キャンペーン」に、本校の生徒が参加した。海田町クリーンキャンペーンの一環として行われているもので、毎年協力している。野球部員や他のクラブの生徒、生徒会役員、一部教員の総勢約50名が、瀬野川等河川敷及び周辺のごみを集めて回った。生徒はごみ袋を片手に川に入り、懸命に取り組んでいた。



汗が出たよ！

副専攻 (学科横断型教育プログラム)

- 学生の希望によって、学科の枠をこえて、最先端の技術を学べる科目群 -

工学部

メディアステーション



メディアステーションは本学で初めての横断型教育として発足し、現在2年目を進行中である。現代の社会情勢にマッチした教育内容で当初から学生の人気を集めている。コンピュータグラフィック関連、映像音声関連、ネットワーク関連の3本柱からなり、それぞれに3科目を配して合計9科目を用意している。アニメーションやゲーム、ホームページ作成といった興味を引くものばかり。パソコン実習が中心の実践的な講義内容である。

環境マテリアルプログラム

環境、資源、材料再利用は今日の技術社会の最も重要な課題である。各種リサイクル法の施行後、企業はこの課題解決とその産業化に向けた技術開発、或いは、これに従事できる技術者の育成を急いでいる。横断型教育プログラム「環境マテリアル」ではこのような産業界の要請を踏まえ、材料を取り扱うための「素養教育」と「技術・技能教育」を優先する。この中では、材料科学の素養、分析、極限環境技術等々の基盤教育がプログラム化されている。また日本の今日的な技術発展の陰には、これを支えた繊細で優れた技術・技能の伝統がある。各種実習を通して、日本人の優れた「個性と自信」を体験する教育プログラムも盛り込んでいる。



環境・生命化学プログラム



横断型教育プログラムの一つ、環境・生命化学プログラムは、近年重要になりつつあるバイオ、環境分野を勉強するもので、関連の講義の他に、課題探求として、遺伝子解析と微生物培養、食品と水質、瀬野川や名水の水質調査、環境ホルモンの調査などを主なテーマにしている。本年度は約50名の参加があった。身近な実習テーマを各自が選択し、各テーマについて楽しみながらかつ深く調査、研究をしている。

このプログラムは地域での就職を有利にするための副専攻で、従来の機械系、電気電子系、情報系の勉強に加えバイオと環境の知識を修得し、食品、バイオ、環境方面への進路に、マルチ人材として就職を開くものである。

「役に立つバイオ、使える環境技術」をモットーに、実習重視で勉強している。バイオと結びついたバイオ情報、バイオメカトロニクス、バイオエレクトロニクス、遺伝子ナノテクノロジーの習得も重要な課題である。

— DPI (Disabled People's International) に参加して —



DPIは、日本語では「障害者インターナショナル」といい、1981年国際障害者年を機に結成された。障害の種別を超えて国際的に活動している障害者の当事者団体である。障害者は差別や隔離、そして本人を無視した一方的な保護など、人間としての尊厳を奪われることが多いが、そうした生き方のおかしさを指摘し、自らの声を発していく活動を始めた。

この団体としての特徴は、障害者本人の集まり、障害の種別（精神障害、知的障害、身体障害）を超えた集まり、人権の問題として、社会の問題として障害者問題を考える集まりとされている。DPIは、世界の約150カ国で作られており、日本DPI会議もその一つである。4年に一度開かれる世界大会に、現代社会学部の学生が2名（1年生・瀬戸口潤之介君と3年生・天野絵里さん）参加した。「すべての障害者の機会均等」と「障害者組織の発展と支援による権利の獲得」をめざして世界各国から参加した障害者とふれあう機会を得て、自分の将来を考える良い刺激になったようである。天野さんは、「聴覚障害者は手話通訳を必要としている人が多いので、その養成にもっと力を注がなければならないと感じた」と述べている。瀬戸口君からは、「障害者運動のリーダーになるためには、能力を発揮するだけでなく、人を組織できる人間の大きさが必要だと話されたことを重く受け止めた」という感想が出されている。参加費用については現代社会学部教員からのカンパもあり、12月11日（水）に報告交流集会を開催した。



現代社会学部 初めての卒業生“就職活動”

現代社会学部

内定はこうやって

GET!



やすの
安野

つよし

豪くん(広島観音高校出身):福山通運(株)に内定

就職活動において大切なことは、自分を企業に売り込むことだと感じました。企業から入社してもらって利益がある人間だと思われないと、もちろん内定はもらえません。だから面接の練習だけは欠かしませんでした。たった10分で自分を売り込むのは難しいことです。そのために就職課に通い、模擬面接を何度もしてもらいました。そこで気づいたことはノートに書いてまとめていました。すると本番でも余裕がうまれ、就職活動の終盤は面接が楽しく思えました。堂々とした態度で面接に臨めたことが内定にも繋がったと思います。



もとや
元谷

あかり

朱里さん(進徳女子高校出身):タイコム証券(株)に内定

3年生の夏休みから就職活動を始め、特に自己分析、企業研究、SPI対策には力を入れました。自己分析の一環として、メモ帳をいつも持ち歩き、自分の行動で感じたことや気づきをメモしておきました。その内容は、エントリーシート作成と面接時の自己PRに大変参考になりました。また、面接試験の準備のために自主的に会社訪問を実施したり、就職課主催のインターンシップにも積極的に参加しました。こうした準備のもとで就職活動をした結果、ゴールデンウィーク前には希望企業から内定を得ることができました。





準優勝と特別賞

短期
大学部

—全日本ゼロハンカーレース2002

獲得

こみあげる喜び!!



第15回全国ゼロハンカーレースは、2002年8月25日(日)に、広島県世羅郡甲山町小谷スポーツ公園で開催された。

今年は3台が出場。学生クラス24台中1台が準優勝。女子ドライバーが1次予選突破で特別賞。もう1台のFF車は決勝に進出できなかったが、完走して皆さんの注目を集めた。

ゼロハンカーとは、50ccエンジンを搭載した手作り4輪車のこと。自動車短大部では、選択授業でゼロハンカーを作り、毎年8月に開かれるスピードレースに出場している。



注目のFF
ぶつぎられ号

準優勝
MR-J号

特別賞
自短じゃけん号



緊張のスタートライン

資格にチャレンジ ライセンスもゲット!

★フォークリフト運転技能講習(1ト以上)

講習日程は7月27日(学科)9月6日~14日(実技)



● 技能講習実施

受講者 = 60名
修了者 = 60名
合格率 = 100%

★小型車両系建設機械特別教育(3ト未満)

講習日程は7月6日(学科)7月13日~14日(実技)



● 特別教育実施

受講者 = 37名
修了者 = 37名
合格率 = 100%

損害保険募集人資格

8月30日~31日講習を実施し、9月4日に試験が行われた。受講者 = 47名、合格者 = 42名、合格率 = 89%

中古自動車査定士(講習会、試験)

11月~12月の毎週土曜日(全5回)講習会を実施し、12月11日検定試験を行なった。

実習設備紹介シリーズ⑦

4輪トータル・ホイール・アライメント・テスタ

近年、車の走行安定性・快適性・経済性を求めるユーザニーズが急速に高まっており、4輪トータル・ホイール・アライメントを中心とした足回りサービスは不可欠となった。

「ホイール・アライメント」とは、サスペンションやステアリングのシステムを構成するそれぞれの部品が、どのような角度で自動車に取り付けられているかを示すものである。

これらの諸角度は、走行上の安全性と安定性・自己直進性と接地性能・最大のタイヤ寿命が確保できるように設定されていなければならない。

● 測定項目

1. 前・後輪キャンバー
2. キャスター
3. 前・後輪左右個別トー
4. キングピン傾斜角
5. 包括角度
6. 操舵角
7. トータルトー
8. セット・バック
9. スラスト角



陶芸の心を学ぶ

—生徒と共に—

高校から発信

「陶芸」というと、誰にでも気軽に出来て、楽しむところの多いジャンルの一つではある。生徒の心も魅了しているとみえて、陶芸の授業には毎年多数の受講希望者が出る。

作品は炎の中を通ることによって変化する。自然の力や偶然的な面白さを体験することも作陶の魅力の一つである。最後に自分の作品を見る緊張の一瞬は、初心者から熟練者まで変わる場所がないとよく言われる。

授業の中では、これに加え、「作って使う」という目的を持つと同時に、自分の中に潜む「個性」を引き出し、それが次の作品への奥深さを増しながら、「高みへのステップ」となることを心がけている。このことによって、生徒はもちろん授業をする側も情熱を駆り立てられ、納得のいく作品づくりをめざしている。



高校

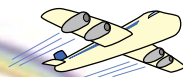


1300名
溢れるキャンパス
オープンスクール

今年度のオープンスクールが、去る9月29日(日)盛大に催された。本校のオープンスクールには、例年多数の参加者で、校内は熱気で溢れかえっている。今年度も昨年度よりも多くの参加者があり、1,300名を超える来校者で盛り上がった。また、女子生徒の参加者が7割と年々多くなっていくのが印象的である。公開講座等の見学を終わった参加者は、中庭で開かれた吹奏楽部のミニコンサートやクラブ活動も自由に見学していた。ミニコンサートは、まさに野外ステージの雰囲気醸し出していた。

和やかな雰囲気の中にオープンスクールは終了した。

修学旅行の楽しみは深く



昨年度は米国同時多発テロ事件のため、海外旅行を含む4コースの分散型修学旅行がやむなく中止となり関東方面に変更になった。しかし、今年度は、予定通り本校独自の4コースで実施することができた

シンガポール・マレーシア
タマンネガラの大自然

■ 熱帯の国シンガポール・マレーシアの旅を満喫した。今回のコースは、マレーシアの大自然がそのまま残っている「タマンネガラ国立公園」での体験学習である。小さなボートに乗って、ジャングルの中を川上に向かう。揺れ動く吊り橋を渡るトレッキング、赤い水しか出ないコテージ。大自然にどっぷりと浸る貴重な体験をした。



隣の国韓国へ！
カムサハムニダ！

■ 釜山・ソウルの行程を4泊5日で巡る修学旅行である。独立記念館では日韓の歴史を学ぶ。テロの影響で見学が出来るか心配した板門店では南北朝鮮の緊張を肌で感じた。韓国の学生と共にソウルでの自由散策。ロッテワールドでの楽しい一時。お土産(買い物)物色に時間を忘れ、遅刻しそうに…カムサハムニダ！韓国！



■ 生徒数59名4泊5日の南国沖縄での旅であった。この沖縄コースは、マリンスポーツを中心とした体験学習が目的である。レッスンを受けて、2日間スキューバダイビング体験。海中の珊瑚礁や美しい熱帯魚が自分のすぐ目の前に…感動的な修学旅行であった。



沖縄を訪れる
ダイビング満喫！

■ 今も当時のレンガ倉庫や木造洋館が点在するエキゾチックな街。光り輝く夜景が素晴らしい函館。古き良き時代の息吹を今に伝える小樽。ニセコでのじゃがいも掘りの農業体験学習。北海道の雄大な自然に親しんだ修学旅行であった。ただ、楽しみにしていた「地引き網体験」が荒波のためやむなく中止になり残念であった。



北海道はたいなまー
ジャガイモ掘りだよ！

我が人生の起点・北海道旅行

高校2年の夏休みに突然一人旅がしたくなり、北海道に行くことにした。しかしお金はない。軽装備に所持金数千円という無防備な旅へと出発した。ヒッチハイクで何十台と乗り継ぎ、青森まで到着。多くの運転手さんの人情に触れることができた。「お兄ちゃん、どこから来たの?」「見聞を広めるために?」「感心だね」と、貧乏学生に本当に好意的だった。青函連絡船で、北海道へ上陸する。函館を起点としての北海道一周旅行は、約2週間かかった。数え切れないほどの感動が、今も記憶に鮮明である。中でも今の人生を変えた想い出は、根室の納沙布岬に行ったときだ。そこは北海道の最東で、肉眼で北方四島が見える。双眼鏡をのぞくと、一番近い歯舞諸島にはソ連の赤い監視塔があり、自動小銃を構えたソ連兵まで見えた。この北方四島に続く雄大なユーラシア大陸、その後ろにはヨーロッパ、どんな所だろうと果てしなく興味が湧いてくる。このとき決心した。「日本を脱出だ!」

若き日の想い出

- 母親からの手紙に涙止まらず -

ひろしま国際ホテル総支配人

藤田 一 男

広島国際学院高等学校 昭和44年度卒業

ヘルシンキまでの片道キップ

卒業後、友達の多くは進学した。私は親の願いも聞かず、アルバイトに専念した。お金を貯めて外国に行くという夢があったのだ。5ヶ月働いて貯めた3万円と1400ドルを持ち、ヘルシンキまでの片道切符を購入して日本を出た。シベリア経由で船と列車での旅である。横浜からバイガル号に乗ってナホトカまで、2日半の船旅。船中では各国語が飛び交い、たくさんの外国人と初めての接触。英語が話せないことはそれほど苦にならないかった。今に自分も頑張ってきた。初めての異国の地、ナホトカ。ここはイメージにある強い国、豊かな国ソビエトなのか。荒涼とした貧しい光景が目の前に。想像していたソビエト連邦の崩壊である。そこから36時間かけてハバロフスクに到着。ここはまさに人種のもつばである。白人系、アジア系、モンゴル系、中国系といろんな人種が集まっていた。映画「オリエント急行殺人事件」のイスタンブール駅を彷彿させた。シベリア鉄道でモスクワまで一週間。力の強そうなおばさん車掌の世話を受け、列車には3日間滞在する。さらに夜行列車で最終到着地点ヘルシンキに向かう。国境を通過するとき、ソビエト官憲が自動小銃を構えて厳

重にチェックするのに対し、フィンランドの入国は入管職員が簡単にパスポートチェックするだけ。共産圏と自由主義国の違いを感じた。

13年間のヨーロッパ滞在

ヘルシンキから、13年間に及ぶ私のヨーロッパ滞在が始まった。ヒッチハイクで移動し、ユースホステルに泊まる。野宿したことさえある。西ヨーロッパを6カ月間放浪し、やっと腰を落ち着けたのはロンドンであった。ここでは、何と言っても英会話ができないとどうしようもない。仕事も見つからないし、雇ってもらえない。飢え死に強制送還か、私には英語を会得するしか選択肢はなかった。そこで英会話を教えるテクニカルカレッジに入学し、猛勉強することになる。仕事を探しているとき、英国バーテンダー協会という看板が目に入った。思いつきで飛び込み「僕は日本のバーテンダーで英国に修行に来ました。どこか紹介してください」と嘆願した。その必死さに同情してくれたのか、ロンドンメイフェアホテルに紹介され、ホテルマン人生が始まることになった。それから12年間、2つのホテルでがむしゃらに働いた。父親が体調を崩したという母親からの手紙に、なぜか涙が止まらず帰国を決意する。帰国後、ひろしま国際ホテルに就職。一からのスタートであった。12年後の現在も総支配人として頑張っている。





笑顔いっぱい!

今社会人2年目、南海電設株式会社に就職して東京支店へ配属されました。東京はウワサ以上に人が多く、初めのうちは特に朝の通勤電車に困

りました。今はコツも掴み、かなり慣れたところ

です。会社では技術グループに所属し、電話関係・LAN配線等の仕事をしています。女性は私一人で配属当時は不安と期待でいっぱいでしたが、男性に負けず頑張ろうと思っています。実際、私は神経が図太いのかもかもしれませんね。学生時代は“8時間労働、週休2日制、土日は趣味を見つけて東京生活をエンジョイしよう”と夢を抱いていたのですが、実際の勤務時間は不規則で休日出勤もあり、最初の1年目はかなり大変でした。余暇がなかなかありませんが、趣味でもサークルでも楽しめるものと思っています。

在学中、硬式テニス部に入っていました。先生に連れられて合宿にも参加し、みんなと楽しく練習に励みました。また、長期の春休み等を利用してのホームステイや海外旅行など、思う存分満喫できたと思います。勉強も私なりに頑張りました。

一先輩として、学生のみなさんに助言したいと思います。まず、よく勉強すること。大学は勉強をするところです。大学で得た知識は実社会で必ず役立ちます。わからないところは先生に聞いて納得のいくまで考えましょう。あとは、余暇を利用して学生生活を楽しみ、友達をたくさん作ること。そして、将来自分の進む道を決めること。夢は人それぞれ違うと思います。国家資格、検定も大切で

学生時代の思い出と社会人になって思うこと

大学で得た知識は
実社会で必ず役立つ!

あおき じゅん
青木 純

工学部電子工学科平成13年3月卒業

す。学生時代に取れる資格は取りましょう。メリハリのある学生生活を送り、しっかりとした目標をもって頑張ってください。



大学は勉強するところです!



ロボット作りがとても楽しい!

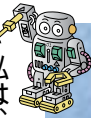
この研究を、第6回中日経営工学国際会議という学会で発表してきました。初めてのことでもあり、しかも英語での説明にひどく緊張してしまい、うまくいかない部分もあって落ち込みました。しかしこれもまた一つの経験として今後役に立て、いろんな事にチャレンジしていきたいと思っています。

今は、ロボット作りを通してものづくりの楽しさを知ってもらおうと、小学校高学年〜中学生を対象としたロボット講習会を準備中です。また、卒業研究では携帯電話を使ったパーソナルモニタリングシステムの開発をしています。簡単に言うと携帯電話を使って家の状況を確認したり、また家に命令を送ることができるといシステムです。

私は、この大学4年間でサークルに入ったり、パソコンの部屋を管理する手伝いをしたりしているなことに取り組んできました。その中でも一番熱中したのがロボット作りでした。ロボットと言ってもいろいろなものがあるのですが、“プログラムブルブリック”というブロックで組み立てたものにプログラムをダウンロードさせて動かすというものです。好きな形に組み立てられ、そして思い通りに動かすことができるということにもおもしろさを感じました。



学会で発表! すごく緊張!



私の大学生活

小中学生にロボット講習会を準備!

工学部 情報工学科4年生

横山 佳奈





希望をかたる

私は今年、留学生として、広島国際学院大学に入学しました。今、工学部で情報を勉強しています。日本

に来てもう2年半です。その間、いろいろな人と会っているいろいろなことを学び、本当にいい体験になりました。

本学の情報工学科では今年、情報デザインに挑戦する人材育成を目指して、「ITデザインコース」を新設しました。私が選んだのはこのコースです。日本にしても中国にしても、世界中どこでも、多くの分野で情報デザインに関する技術・感覚を身につけた人材がますます必要になるでしょう。これからの4年間で、専攻する知識をしっかりと勉強したいと考えています。学校の教科だけでなく、日本語も引き続き勉強したいです。日本の文化、生活を深く理解するために、日本人の友達をたくさん作り、社会活動に参加したいと思います。

また、勉強のかたわらで旅行もしてみたいと望んでいます。美しい自然と豊かな史跡・文化財に恵まれた“日本人の心のふるさと - 京都”が、特別の妙味を持つ都市であることを知っています。是非一度訪ねてみたいものです。

4年間は、すごく早いと思う！大学を卒業したら、また本学の大学院に進学したいです。日本で有意義な留学生活を送り、世の中の役に立つ人になるよう頑張りたいと決意しています。

工学部 情報工学科 1年生 蔣 光 焜

日本へ来て、この大学に入学 でき本当によかった！

中国からの留学生「今の思い」



—自分に悔いが残らず 「よい試合をした」と言える試合をしたい—

学生会 剣道部主将 曾 田 宇一郎

僕たち剣道部は、毎週月・火・木・金曜日の週4日厳しく、楽しく、和気あいあいと稽古を行っています。月・木曜日は阿戸小学校に行き、小・中学生を指導しながら自分達の技もみがいています。



火・金曜日は大学の道場（学生会館イベントホール）で約2時間半みっちり稽古をしています。特に金曜日は、多くの先生方やOBの方々に参加していただいて、道場が使用できる時間ぎりぎりまで練習します。

試合では勝ち負けも大事ですが、日ごろの稽古の成果が出せるように、そして自分に悔いが残らないような試合ができるようにと部員全員が心がけています。勝っても負けても自他ともに「良い試合をした」と

言えるような試合が毎回できれば良いなと思っています。

また、練習以外での部員の団結力も強く、学園祭やその他の学校行事でも一人ひとりが役割をきちんとかなし、最大限の努力をするので、いつも楽しい思い出がのこります。現在約20名の部員がいますが、世間一般でよく言われているような体育会系の厳しい上下関係はありません。先輩後輩の仲は良く、時間があればいつのまにか部室に集まって色々な話をしたり、一緒に食事をしたりと非常に楽しいサークルです。

師範兼監督の上野先生、コーチで先輩の草田先生をはじめとする多くの人達に支えられているという自覚をもってこれからも頑張っていきたいと思っています。



心も通う猛練習！

工学部

情報工学科

ちょう
趙

えつ
悦 研究室



学生と共に学ぶ

本研究室はPCクラスタによる並列計算法の研究と、インターネットにおけるデータベース応用システムの研究を行っている。在籍する4年生一人ひとりの特長を生かすことを意識して、2～3人のグループで関連する卒業研究に取り組んでいる。ここで、これらのテーマの概略を紹介する。

1) PCクラスタによる並列計算法の研究

組合せ最適化問題の計算には膨大な時間がかかることがよく知られている。CPUとメモリの速度向上が限度に近づいていることを背景に、近年、注目されてきたのは、廉価なPCによるクラスタ式の並列計算システムの構築である。優れた性能価格比に魅力が感じられている一方、PCクラスタに向いている並列計算法の開発も求められている。本研究室では並列シミュレーテッドアニーリング法を中心に、このような並列計算法の研究に取り組んでいる。

2) インターネットにおけるデータベース応用システムの研究

インターネットの普及につれて、ネット上でのデータサービスシステムの構築が多数求められるようになった。オンラインショッピングなどの実用的なシステムを構築することによって、システムの性能、セキュリティなどについて研究するのがこのテーマの主な内容である。就職後の仕事に役立つ実用的な内容が多く取り入れられているので、卒研に人気のテーマである。



開放的な雰囲気の研究室

現代社会学部

たか はし さぶ ろう

高橋三郎 研究室



蔵書に埋もれた研究室で

研究室にある本をながめていると、われながらあきれてしまうことがある。いったい自分の専門はなんだろうかと。わかるのは活字中毒だということぐらいか。

それでも、これらの本をいくつかのグループにわけることができそう。まず最も多いのは、軍事関係書。卒業論文が日本軍隊論だったくらいだから、年季が入っている。ミリタリー・ソシオロジー（狭義には軍隊社会学だが、わたくしは戦争社会学とむすびつけている）が専門という研究者が、日本ではわたくし1人という時代もあった。

もうひとつのグループが、ナチスのホロコースト関係書。もともとは強制収容所を生きのびることの意味を考えるために、強制収容所関係文献を読んだのが始まりだ。この問題に関するわたくしの考え方は1970年代も今も変わりはない。だから結果的には新しい文献も必要なかったのだが、ホロコースト・ブームで次々に刊行される本をつい買ってしまったというのが実情だ。

これらの本をどう処分しようかというのが目下の悩みの種だ。でも、あるテーマに関心を持つと、わりあいしつこく文献をあつめるくせがあるので、本はふえるばかりである。雑学・雑書乱読が生き甲斐だからどうしようもないだろう。もっとも、そのおかげで学生のみなさんのどんな関心や興味にもついていけると自負しているのだが。



著書

研究室紹介

どんな大学院がでてるの

博士前・後期課程を設置



現代社会学研究科



平成15年4月、広島国際学院大学大学院現代社会学研究科（現代社会学専攻博士課程5年制）を開設します。募集定員は博士前期課程6名、博士後期課程3名です。前期課程を修了すると社会学修士、後期課程を修了すると社会学博士の学位が授与されます。

本学現代社会学部（日本社会学会正会員約20名を擁する）の上に大学院を設けることで、中

国地方では本格的で、かつ最高の水準を備えた社会学の教育・研究の拠点となることが期待されているのです。本研究科では、いわゆるソフトな社会学（社会学、文化人類学、社会心理学など）を駆使して、複雑系としての現代社会をその歴史性と全体性において解明することを目指します。研究・教育領域は「社会学理論・方法」を中心に「産業・組織」、「国際化・比較社会」、「家族・福祉・コミュニティ」、「生活文化・消費」など広く包摂しています。また、広島の歴史的な地域社会的特性と現代的な国際社会への問題提起（情報発信）を十分に認識しつつ、地域に密着した研究教育を行います。

社会学研究者に加え、実際的な職業、あるいは社会活動（公務、教育、マスメディア、サービス産業、研究・調査機関、各種NGOなど）において高度な専門的知識を備えた職業人として活躍できる人材の育成・再教育に寄与したいと考えています。そのため、上瀬野キャンパスでの授業に加え、中野キャンパスに設けられるサテライトを使って夜間や週末の授業時間帯の講義も設定し、生涯教育に対応できる教育環境を整備します。



静かなお茶席は盛大

第35回 高城祭

テーマ「空」～sora～

第35回高城祭が行われた。去る11月16日(土)・17日(日)、中野キャンパスはグランドいっぱいの来場者でごった返した。今年のテーマは「空」、あの清々しい空を見れば明日も頑張ろう!と思いませんか?私達もそんな空になりたかったのですと実行委員長はいう。そして、澄み切った空のような気持ちになろうと呼びかけた。

会場内は色鮮やかな看板や飾り付けで入場者を迎えた。学生のバザーや文化部の展示、ステージの様々なイベントで大いに賑わった。17日の終夜祭はポイントラリー、広島文教女子大学ダンス部のピルエットが躍動感溢れるダンスを披露した。ピン・ピン!ピンゴ!!! グラム旅行(ペア)ご招待を引き当てた人にどよめきがあった。



この高城祭に先立つ11月8日(金)、学生は通路などを清掃し、地域の方々の理解と参加を呼びかけた。



市内パレードでアピール!